

## 愛媛大学教育学部教員養成課程の第3回学校飼育動物講習会と成果

平成27年2月

一般社団法人愛媛県開業獣医師会

一般社団法人愛媛県開業獣医師会（ベッツーえひめ、以下本会）は平成24年から愛媛大学教育学部と連携して、学校教員養成課程の学生に「学校動物の講習会」を行っている。第3回講習会は、平成26年12月22日に行った。

本講習会の趣旨は、学生の在学時に獣医師から学校動物に関する一般および基礎知識や健康衛生管理方法などの講義、さまざまな動物にふれあう体験実習、本会が作成した文部科学省の学校動物に関する指針や動物愛護法を含めたテキスト（本会ホームページに掲載）によって、学校動物の意義や将来の教師としてのあり方を考え、活かすことにある。

ここでは、受講者のうち32名のレポートも含めた講習会の評価の概要を示した。

### 1) 教師の立場から学校動物を考える

本会の会員は、本講習会以前に小学校へでかけ、低学年の生徒が動物にふれることによって命の大切さを知ってもらう「動物ふれあい教室」活動の経験がある。しかし、小学校ごとへの訪問方式では、訪問できる小学校数、対象の教師や生徒数、授業時間、伝える内容など様々な限界がある。本講習会は、教員養成課程の学生が学校動物飼育の趣旨や知っておくべき知識の習得とふれあい体験をすることによって、将来教師としてより多くの生徒に望ましい学校動物の飼育管理を通して幅広い教育に活かせると考えている。

事前の調査によって、教師が動物について知ることが基本であるとわかっていたので、講義の冒頭で「まず先生から動物に馴れましょう」の意義について話した。

今回も学生の動物に対する経験や印象は様々であったが、全員が講義の趣旨を理解し、後半の動物のふれあい体験によって、過去の動物に対する経験や教育実習における動物への違和感や不安が修正されたのではないかと思われた。

教師が動物に馴れていることで、学校動物の飼育管理や動物愛護精神を守り指導しながら、文科省の趣旨である動物飼育の意義や教育の効果、たとえば、教師として生徒に何を伝えるか、生徒の何を育てるかを幅広く考える機会にな

った。その結果を二つに大別すると、ひとつは生きている動物にふれるだけでなく病気や死を体験することによる生命の尊厳、飼育管理の共同作業による仲間への思いやりなどの精神的な面を育む効果と、もう一つは動物の観察や興味から教えるだけでなく生徒自身の発想や学習力を助長する効果が期待できることであった。さらにこのような効果を踏まえ、将来の教育現場で今回の成果を活かす方法や問題点まで考えが及んでいた。

## 2) 動物の健康・衛生管理と感染防止

講義の後半は、現在学校で適正な動物の飼い方や治療を行っている会員が、獣医師の立場から教師として知っておくべき動物の健康・衛生管理方法などの基本について述べた。その内容は、学校動物として多く飼育されているウサギを代表例として、望ましい飼育舎、動物の扱い方や衛生管理、動物の疾患とその対応方法など、さらに生徒を守るための動物から人へ罹患する人畜共通伝染病、消毒液や手洗いによる感染防止方法などについて説明した。手指の消毒や動物の扱い方などは、動物のふれあい実習時に体験した。

## 3) 動物のふれあい実習

犬、ウサギ、モルモット、ハリネズミなどのほ乳類や、蛇、亀、トカゲなどの爬虫類はじめ、多種多様な動物を用意した結果、前回と同様に大変好評であった。実際に動物へ触れることによって、動物に近づく際の注意点や安全な扱い方、動物が安心する要点、聴診器による心音の聴診など、講義内容の体験だけでなく、さまざまな発見やあらたな習得などの成果があった。とくに、ハリネズミや蛇など普段触れることがない動物に関しては、興味を持った観察、見た目と感触の相違など動物に対する感性が得られたのは大きな成果であった。

## 後記

講習会には昨年も参加された学生が複数おられたこと、テキストの詳読や本会のホームページ閲覧など積極的な意志が伝わった。また、レポート内容を合わせると本講習会の趣旨がより深く理解されていることもわかった。本結果が学生の学校動物について検討する上で少しでも役立っていると確信したので、本会の事業として今後も継続したい。

以上